

流入続く債券ETF、高利回り債「再評価の流れ」 ブラックロック責任者

2026/04/02 09:18 日本経済新聞電子版 2119文字

世界的に金利が上昇基調（債券価格が下落基調）にあるなかで、債券上場投資信託（ETF）への資金流入が続いている。米ブラックロックでiShares（iシェアーズ）の債券ETFグローバル共同責任者を務めるステファン・ライプリー氏は、債券ETFについて、利回り水準の高さに加えて現物の米国債に比べて流動性がはるかに高く取引を手掛けやすいため、「債券を主要な収益源として再評価するなかでETFに資金が集まる流れがきている」と話す。また、ブラックロックは3月中旬に世界初となる日本円建て社債ETFを東京証券取引所に上場した。同氏にその狙いを聞いた。



ステファン・ライプリー氏

■高い利回り水準、債券ETFに収益機会見込まず投資家

——3月23日時点で、世界の債券ETF業界には2026年初から1700億ドル（約27兆円）の資金流入がありました。過去最大となった25年の資金流入額をすでに30%以上も上回っています。25年の米関税政策や最近のイラン情勢の緊迫化で債券に売り圧力が増す局面があったにもかかわらず、債券ETFへの資金流入が続くのはなぜでしょうか。

「米10年債利回りは一時5%程度まで上昇し、足元でも4%を超える高水準で推移している。5年ほど前まではありえなかった利回り水準だ。多くの投資家にとってボラティリティー（変動率）は高いが、利回り水準は魅力的に映っているはずだ。世界的に金利が上昇し、投資家は債券にインカムゲイン（金利収入）の機会をこれまで以上に見いだしている。債券を主要な収益源として再評価しており、そのツールとして債券ETFに資金が集まる流れが続いている」

「現物の債券に比べて、ETFは流動性が優れている。年初から2月末時点で取引高の平均は1日あたり600億ドル（約9兆5100億円）に達し、20年（200億ドル）に比べるとはるかに活発となり取引しやすい。世界的に金利が上昇するなかで、1つのETFで幅広い債券に同時に投資できることなどが安定した収入を得られるとして資金を呼び込みやすかったのだろう」

「政策金利を反映するとされる米短期債利回りは3%台後半と高水準で、信用力が高く質の良い商品には特に資金が集まりやすい。実際にブラックロックのiシェアーズのなかで、残存期間が3カ月以下の米国の短期国債へ投資する『iシェアーズ 米国債0～3カ月 ETF』への流入額は年初から127億ドル（約2兆円）と力強く、他の米国債銘柄では、幅広い年限の米国債へ投資するETFが50億ドル（約7900億円）と続いた」

■「金利ある世界」に突入の日本でも債券ETFへ資金流入か

——25年は日本の国債利回りが大きく上昇した年でした。

「日本の国債市場は、利回りの観点から今までにない収益機会を迎えている。ドル建ての投資家からすれば、米国の短期金利が日本の短期金利を上回っているため、為替ヘッジ（回避）で日米金利差分が上乘せされる。金利の変動率の高さにもかかわらず世界的に債券ETFへ資金が流入する中、『金利ある世界』に入った日本でもETFへの資金流入のトレンドが起きると思っており、3月中旬に世界初となる日本円建ての投資適格社債を主な投資対象とする『iシェアーズ高格付け日本円社債ETF（515A）』を東証に上場した」

■社債市場の問題点を補う日本円建て社債ETF

——iシェアーズ高格付け日本円社債ETFの利点を教えてください。

「日本の金利が上昇したことで、社債利回り自体も魅力的な水準になった。日本の社債市場の長年の問題は流動性の低さや、分散投資の観点からアクセスがしにくいことだった。今回ETFにしたことで、個人投資家でも小口で社債のETFを購入できるようになり取引を手掛けやすくなった」

「個別企業のボトムアップ型調査による日本国内のクレジットチームが戦略を率いており、独自の定量的スクリーニング（ふるい分け）と専任のクレジットアナリストによる定性的分析を組み合わせで設計している。こうした統合的なアプローチが社債市場で安定したリターンを生み出すカギになると考えている」

「社債は株式よりもリスクは低いですが、国債よりはリスク選好的な商品といえる。今回のETFの構成は、KDDI（9433）やアサヒ（2502）など発行体の信用力が高い企業を中心に構成している。ポートフォリオとしての安定性を確保しつつ、高い利回りの収益を実現できるよう設計した」

——日本企業の社債ETFの運用は、日本国内の社債市場にどういった影響がありますか。

「市場の発展度合いにもよるが、長期的には社債ETFでの運用が増えれば、社債市場にアクセスしやすくなり流動性の改善につながると考えている。金利環境が変わるなか、機関投資家が社債ETFを国債や社債など既存の債券の資産配分を補完したり強化したりするかたちで利用するケースが出てくると考えている」

【略歴】 Stephen Laipply（ステファン・ライプリー）氏 米バンクオブアメリカ・メリルリンチを経て、2009年にブラックロックに入社。米国 i S h a r e s の債券戦略部門の責任者を務め、現職に至る。

〔日経QUICKニュース（NQN） 聞き手は吉井花依、大石祥代〕

【関連記事】

- ・ 投信残高3年ぶりトップ交代 「スリムS&P500」の首位期間、歴代2位
- ・ 日経銀行株トップ10ETFが上場 金利上昇、配当利回りに投資機会

許諾番号NK002558 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.